

## ■ 概況

1/17~1/23のNYMEX・WTIは、52.07~53.80ドルの範囲で堅調に推移した。

1月24日は、一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国の原油在庫が市場予想に反し積み増し・ガソリン在庫も歴史的な高水準となったにもかかわらず、米国がベネズエラに対する追加制裁として原油輸入制限を検討するなどベネズエラ情勢の悪化に伴い、3営業日ぶりに反発した。3月限終値は前日比0.51ドル高の53.13ドル。

週末25日は、ベネズエラの政情緊迫化に伴う供給制約への懸念、また、米国株式の反発による投資家心理の改善により、続伸した。ただ、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が862基(前週比10基増)の報告、前日のEIAによる在庫増加発表が上げ幅を圧縮した。3月限終値は前日比0.56ドル高の53.69ドル。

週明け28日は、週末来の米国の供給過剰懸念、月末に予定される米中貿易協議の難航観測により、3営業日ぶりに反落した。3月限終値は前日比1.70ドル安の51.99ドル。

29日は、米国が対ベネズエラ経済制裁の一環として、国営石油会社(PDVSA)を対象とするなど、ベネズエラからの供給削減不安が高まり、反発した。3月限終値は前週末比1.32ドル高の53.31ドル。

30日は、EIAの在庫週報の原油在庫の予想を下回る小幅増加・ガソリン在庫の予想外の取り崩し、FRBの利上げ棚上げ発表、ベネズエラ政情不安から、続伸した。3月限終値は前日比0.92ドル高の54.23ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は1月17~23日の間60.30~62.60ドルの範囲で推移した。1月24日60.60ドル、25日61.60ドル、28日60.50ドル、29日60.20ドル、30日61.20ドルで推移した。

為替は、1月17~23日の間108.97~109.69円の範囲で推移した。1月24日109.54円、25日109.77円、28日109.35円、29日109.18円、30日109.42円で推移した。

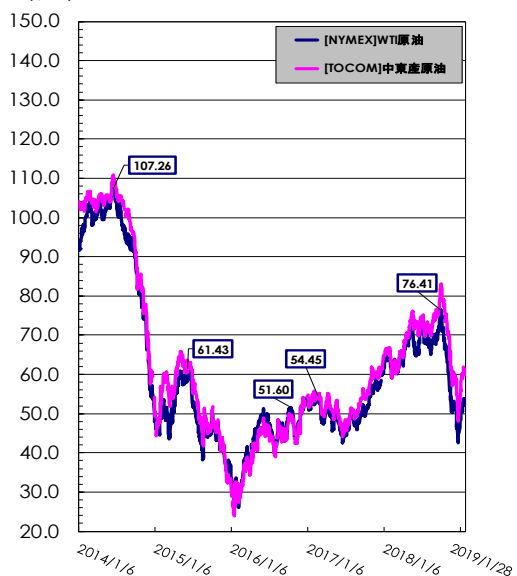
財務省が30日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は、46,090円/klで、前旬比3,491円安、ドル建てでは65.70ドルで前旬比4.02ドル安。為替レートは1ドル/111.54円だった。

主要元売会社の1月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げだった。1月第4週の原油価格は値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、1月28日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は横ばい(18%ベース)だった。ガソリン、軽油は13週ぶりの値上がり、灯油は13週ぶりに値下がり止まった。この週(1月第4週)の原油コストは値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/20 ~ 1/26	3,620 ▼ -47	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.4 ▼ -1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/26	13,447 ▼ -57	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/28	60.01 ▼ -1.89	▼ -6.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/28	51.99 ▼ -0.58	▼ -13.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	65.70 ▼ -4.02	▲ 1.12
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,090 ▼ -3,491	▲ 409
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.54 ▲ 1.53	▲ 0.92
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/28	110.35 ▲ 0.32	▼ -0.64

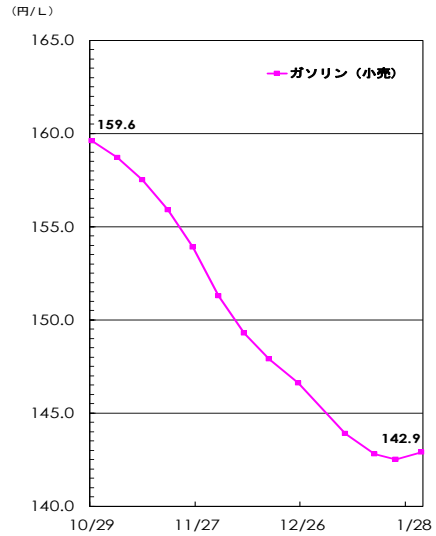
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/20 ~ 1/26	928 ▼ -53	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	806 ▼ -86	▼ -	
	輸出	"	105 ▲ 12	▼ -	
	在庫	1/26	1,825 ▲ 17	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/22 ~ 1/28	55.2 ▲ 1.0	▼ -6.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/22 ~ 1/28	52.4 ▲ 0.5	▼ -8.3
		(TOCOM/中部)	1/28	53.9 ▼ -0.8	▼ -7.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/28	142.9 ▲ 0.4	▼ -2.0	

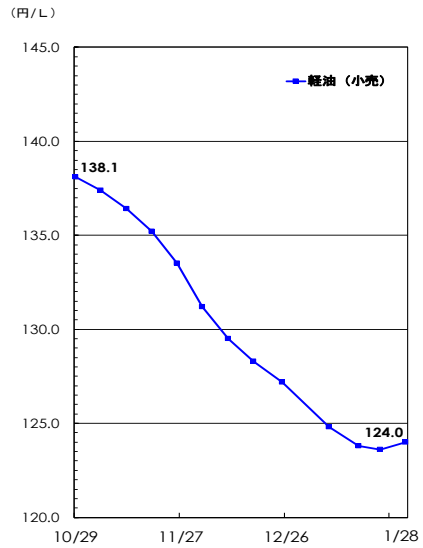
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

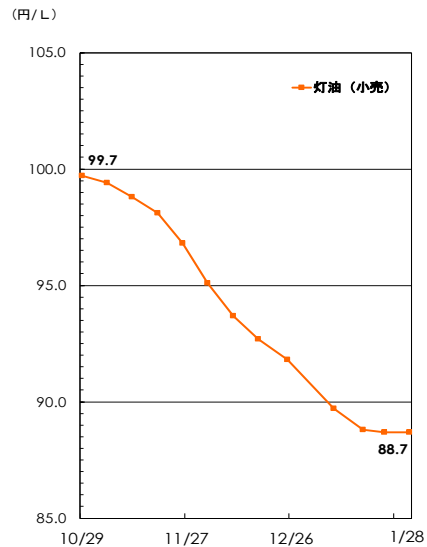
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/20 ~ 1/26	832 ▼ -33	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	620 ▼ -114	▼ -	
	輸出	"	286 ▲ 32	▲ -	
	在庫	1/26	1,664 ▼ -74	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/22 ~ 1/28	59.5 ▲ 1.4	▼ -2.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/22 ~ 1/28	61.3 → 0.0	▲ 1.3
		(TOCOM/中部)	1/28	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/28	124.0 ▲ 0.4	▲ 1.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/20 ~ 1/26	413 ▼ -33	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	467 ▼ -107	▼ -	
	輸出	"	30 ▼ -20	▲ -	
	在庫	1/26	2,014 ▼ -84	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/22 ~ 1/28	59.2 ▲ 1.1	▼ -5.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/22 ~ 1/28	59.1 ▲ 1.7	▼ -5.8
		(TOCOM/中部)	1/28	60.2 → 0.0	▼ -3.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/28	88.7 → 0.0	▲ 1.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月30日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内の原油在庫が前週比90万バレル増加したものの市場予想(同350万バレル増)を大きく下回ったこと、ガソリン在庫も同220万バレル減少と市場予想(同190万バレル増)に反していたこと、また、米国連邦準備制度理事会(FRB)が利上げを当面棚上げしたこと、さらに、ベネズエラ政情不安と国営石油会社(PDVSA)を経済制裁対象としたことから、供給過剰懸念は後退し続伸、昨年11月21日以来約2ヶ月ぶりの高値を回復した。3月限終値は前日比0.92ドル高の54.23ドル。4月限の終値は前日比0.87ド

ル高の54.47ドルだった。

EIAによると、1月28日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.5セント値上がりの1ガロン2.256ドル(65.7円/%)、ディーゼルは前週比横ばいの2.965ドル(86.3円/%)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは15週ぶりに値下がりが止まった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成31年1月20日～1月26日に休止したトッパー能力は3.6万バレル/日で、前週に対して3.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は362.0万klと、前週に比べ4.7万kl減少。前年に対しては3.6万klの増加。トッパー稼働率は92.4%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては0.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.4%減、ジェット/26.8%減、灯油/7.4%減、軽油/3.8%減、A重油/7.3%増、C重油/5.3%減。今週のC重油の輸入は4.0万kl(前週比4.0万kl増)。軽油の輸出は28.6万kl(前週比3.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではC重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では全ての油種で減少となった。ガソリンの出荷は80.6万kl(対前週9.6%減)と前週比で2週振りに減少となり、4週連続で100万klを下回った。ジェット5.2万kl(対前週28.6%減)、灯油46.7万kl(対前週18.7%減)、軽油62.0万kl(対前週15.6%減)、A重油25.4

万kl(対前週11.4%減)、C重油21.3万kl(対前週26.8%増)。

(単位:千kl)

	今週 (1/20 ~ 1/26)	前週 (1/13 ~ 1/19)	前週比
ガソリン	806	892	▼ -86 (-10%)
ジェット燃料	52	73	▼ -21 (-29%)
灯油	467	574	▼ -107 (-19%)
軽油	620	734	▼ -114 (-16%)
A重油	254	286	▼ -32 (-11%)
C重油	213	168	▲ 45 (27%)
合計	2,412	2,727	▼ -315 (-12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月26日時点の在庫は、ガソリン、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは182.5万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては10.1万kl多い。

灯油は201.4万kl、前週差8.4万kl減。前年に対しては32.1万kl多い。

軽油は166.4万kl、前週差7.4万kl減。前年に対しては2.7万kl少ない。

A重油は82.7万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては12.7万kl多い。

C重油は208.7万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては11.8万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (1/26)	前週 (1/19)	前週比
ガソリン	1,825	1,808	▲ 17 (1%)
ジェット燃料	818	846	▼ -28 (-3%)
灯油	2,014	2,098	▼ -84 (-4%)
軽油	1,664	1,738	▼ -74 (-4%)
A重油	827	816	▲ 11 (1%)
C重油	2,087	2,143	▼ -56 (-3%)
合計	9,235	9,449	▼ -214 (-2.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月22日から1月28日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、1月22日～1月28日の間、ガソリン108～109円台で値上がり後やや軟化、軽油58～59円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油58～59円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111円台で横ば

い、軽油61円台で横ばい、灯油56～57円台で値上がり後やや回復し推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン105～106円台で大きく値下がり、軽油61円台で値下がり後横ばい、灯油58～59円台で出入り後やや値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、海上・灯油と先物・軽油を除き、前週平均と比べ値上がりした。

2月第1週(1/31～2/6)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1/22～1/28千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も1.1円の値上がり、軽油も1.4円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は1.2円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油も1.7円の値上がり、軽油は横ばいだった。

2月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均	今週 (1/22 ~ 1/28)	前週 (1/15 ~ 1/21)	前週比
レギュラー	55.2	54.2	▲ 1.0
灯油	59.2	58.1	▲ 1.1
軽油	59.5	58.1	▲ 1.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (1/22 ~ 1/28)	前週 (1/15 ~ 1/21)	前週比
レギュラー	52.4	51.9	▲ 0.5
灯油	59.1	57.4	▲ 1.7
軽油	61.3	61.3	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/22～1/28実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.7
灯油	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 1.4
軽油	▲ 1.4	→ 0.0	▲ 0.7
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の142.9円、軽油も同0.4円高の124.0円、灯油は同横ばいの88.7円(18%ベースでは1,596円)だった。ガソリン・軽油は13週ぶりの値上がりで、灯油は13ぶりに値下がり止まった。都道府県別には、値上がり33都道府県、横ばいが2県、値下がり12県だった。全国最安値は埼玉県(136.7円(前週比1.2円高)、次が愛知県(137.9円(同0.6円高)、最高値は長崎県の154.5円(同0.4円安)であった。最も値上がりしたのは3.3円高の神奈川県(139.3円)だった。最も値下がりしたのは1.1円安の兵庫県(140.8円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げだった。

今週は、原油価格が上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなった。次週(2月4日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/28)	前週 (1/21)	前週比	直近高値
レギュラー	142.9	142.5	▲ 0.4	08/8/4 185.1
灯油	88.7	88.7	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	124.0	123.6	▲ 0.4	08/8/4 167.4

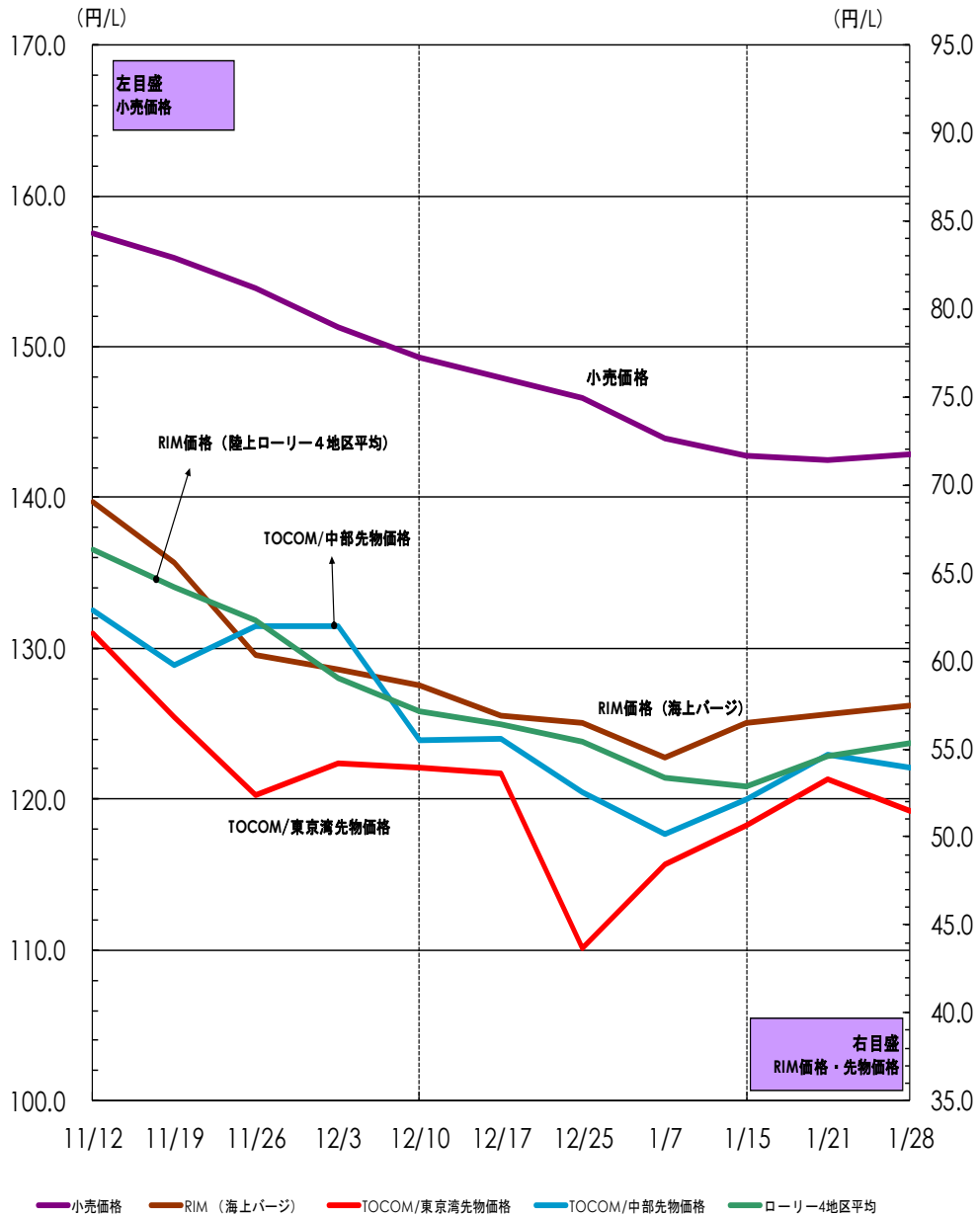
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/11/12 ~ 2019/1/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2018第42号)の公表は、2/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。